

21世紀ひょうご市民学会 会報



25号

2014年2月1日

—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表 澤木昌典

<http://www.hyogo21ctzn.com>

❖寒い時期ですが、体を動かし、声を出し、脳の活性化に努め、健康維持で頑張りましょう！

今年2014年は甲午（きのえうま：こうご）の年、故事によれば、殻を破っておいに躍動する年。寒い時期ですが、体を動かし（お勧め：歩く＝目標1万歩で手足を動かす、ラジオ体操）、声を出して（カラオケ、詩の朗読、読経など）、脳の活性化に努め、健康維持で頑張りましょう。

※小林東生氏のお持ち寄り資料（脳の図解入り）によるお話では、「手八丁、口八丁」が脳の活性化を向上させ、認知症の防止につながるということです。
（第2回研究会「生きる力」（1）による）



❖今年度の研究会のテーマは、「生きる力」に決まりました

昨年8月のアンケート実施により、今年度（平成25年度）研究会、知的サロンの開催日は第2木曜日（従来どおり）、推進方法は、知的サロン：当月発表者がテーマを選ぶ（従来どおり）と決まりました。しかし、研究会のテーマと推進方法がなかなか決まらず難航しました。10月の会合で計盛氏（企画推進世話人）のご意見をいただき、テーマは「生きる力」に賛成多数で決まりました。推進方法は、世話人は決めず各自「生きる力」に沿った意見を持ち寄り、トーク形式で行うことになりました。

❖今年最初の第32回知的サロンは、正月にふさわしく、「日本のオニ」ではじまりました

生駒在住の野口民治氏による、奈良地方に伝わる故事探求のお話でした。詳細は、4ページに概略記載いたしました。

お知らせ

1. 平成25年度 第3回研究会

日時：平成26年2月13日（木） 15時～17時

場所：神戸生活創造センター5階（JR神戸駅前神戸クリスタルタワー）

テーマ：「生きる力」（2）何にいちばん感動し「生きる力」にしていくか？

会員各自テーマに沿った意見を持ち寄り、トーク形式で行います。

2. 第33回知的サロンの開催は、3月に予定しています。

*詳細は別途ご連絡いたします。



第30回知的サロン 「研究会アンケート集約」

▶平成25年9月19日(木)
▶神戸生活創造センター5階

1-1 前回(第29回 生駒の散策を終えての感想)の各自発表と今後の野外研修への指針

①生駒山地探訪雑感(苗村康弘氏まとめ) ②生駒の山めぐり(古園怜子氏まとめ) ③生駒の見学研修感想(小林東生氏まとめ)をもとに出席者でトークしました。また、野口民治氏による新たな生駒故事の説明を聞き、有益な研修感想会になりました。今後も野外研修を望む声大でした。

※会報24号P3 知的サロン「古代伝承の地理的背景をさぐる」参照。

1-2 アンケートの集約

◆研究会について

Q 毎月の開催日はいつがよいか?

- ①水曜日=2人 ②木曜日=4人 ③土曜日=1人

Q 今後のテーマ

- ①此の国を思う
②原子力発電は必要?
③澤木先生ご専門分野周辺の課題
④超高齢時代を生きる知恵
⑤前回やり残したテーマを片付ける

Q 今後の進め方

- ①勉強会でなく、創造的討論を
②事例研究
③テーマは原則1年にしては(2年は重すぎる?)
④1つのテーマで、1~2年続け最後はレポートにまとめる
⑤当日のテーマについて論点や基礎知識の提示を1時間と、出席者の意見交換を1時間行う



◆知的サロンについて

Q 毎月の開催日はいつがよいか?

- ①水曜日=3人 ②木曜日=3人 ③土曜日=1人

Q 今後の室内研修

- ①2~3組に分かれて、テーマを決めたコラボレーション
②話題提供を順番制にする
③年に何回かは、特別な話題を持つ人や、珍しい体験を持つ身近な知人に来てもらい話を聞く
④1人が与えられた時間、自分で選んだテーマで話して、それについて全員でチェックして討議
⑤話題提供者は30分話をし、1時間30分全員で討議する

Q 今後の野外研修の回数/年

- ①0回=1人 ②1回=4人 ③2回=2人

Q 野外研修の内容

- ①名所古跡散策=3人
②街歩きと味どころ散策=3人
③一般には入れないところ=1人

(アンケート回答者=7名、世話人へ一任=3人、その他=未返信)



◆今後の進め方(決定事項、未決事項)

[開催日] 研究会、知的サロンともに第2木曜日(従来どおり)

[テーマ] 研究会:創造的な研究としてテーマを何にするか?⇒今回時間切れのため、次回10月に再検討

知的サロン:室内研修は当月発表者がテーマ決定、野外研修は1~2回/年

[世話人] 研究会世話人=決まらず

知的サロン世話人=足立隆子氏

平成25年度 第1回 研究会

「研究会テーマ決定の議論」

▶平成25年10月11日(木)
▶神戸生活創造センター5階

研究会は勉強会や雑談会ではなく、新しく創造的なものでないとその意に合わないなどの議論がなされましたが、現在世話人も決まらないまま、誰がどのように新しく創造的な研究をしていくか、なかなか名案が出ませんでした。例えば、前回の「高齢者問題」は、範囲が広すぎたし、今回新たに、認知症や終末問題を

取り上げれば、暗いテーマとなる恐れがあるなどなど。

今回2時間たっぷり議論した結果、計盛氏(企画推進世話人)より、研究会の新テーマは「生きる力」として、出席者全員のトークの会にしたらどうかとの案が提示され、賛成多数で決定しました。

平成 25 年度 第 2 回 研究会 「生きる力」 (1)

▶平成 25 年 12 月 12 日(木)
▶神戸生活創造センター5 階

出席者各位が持ち寄った「生きる力」での話題は、次のようなものがトークされました。



◆広報担当より資料提示

1 精神力の安定維持

- ①宗教への崇拝
- ②文学的詩歌の暗誦と読書
- ③音楽鑑賞
- ④深夜便のラジオを聞く
- ⑤孫たちとの交流

2 体力の維持と脳の活性化

- ①毎日 1 万歩のウォーキング目標
- ②脳の活性化
- ③医者へ通って持病を治す

3 社会への貢献

※詳細は、当市民学会ホームページ(平成 25 年度 第 2 回研究会資料「生きる力」について(PDF 1,761KB))参照。

◆出席者トークの内容

大竹氏:「若い人」の認識力への危機感。現在の「若い人」は物事を解釈する際、完全な答を得ないまま納得して終わってしまう傾向がある。ITなどを含め情報が多すぎる時代だからか?

苗村氏:「若い人」の認識力をあげるにはどうしたらよいか?

大竹氏:実地教育しかない。

小林氏:論語の中の「生きることは礼でもって行く」「死人を送るときも礼でもって行く」「祭りは礼でもって行く」

計盛氏:ロシアの古い諺に、朝は自分で食べる、昼は半分を友人にあげる、夕は敵にあげる。

塩野氏:宗教への崇拝(毎日般若心経を唱える)、書物は i フォンとタブレット(IT)で購読。

伊藤氏:現役時代から野球が好き、現在も地域の少年野球を指導している。宗教への崇拝(朝晩に般若心経を唱える)。

津田氏:体を動かすことが大事(昨年春に大病で入院したので特に思う)。

橋本氏:実家の高齢な母親の介護で度々見舞うが、ラジオ体操をするのを楽しみにしている。



◆その他

老人の物忘れと認知症との違い、認知症傾向のチェック項目についての議論、気張る心理(介護認定の調査員が訪問時に認知症患者がしっかりした様子を見せようと気を張る)で介護認定の等級に差異が生じる、などの活発な議論がなされました。

※小林東生氏のお持ち寄り資料(脳の図解入り)によるお話では、「手八丁、口八丁」が脳の活性化を向上し、認知症への防止につながるということです。

※次回は、何に一番感動し、「生きる力」にしているか?などについて、意見を持ち寄りトークすることになりました。

第 31 回 知的サロン

「福島原発事故による土壌の放射能汚染対策(ケナフ)」

▶平成 25 年 12 月 14 日(木)
▶塩野 勝
▶神戸生活創造センター5 階

序論

福島原発事故による大気中への放射性物質拡散と汚染された土壌汚染の修復方法について、関勝寿氏の報文を参考にこれまでにえられている知見をまとめた。

事故の経緯

2011年3月11日の地震発生による原発停止の際、電源喪失のため、冷却遅れにより炉心溶融(メルトダウン)して放射性物質が発生。

放射性物質の拡散

水素爆発、冷却水漏れ等により、大気、土壌、海水、

地下水に放射性物質が放出された。

土壌汚染とその影響

放射性物質は降雨、積雪、塵と共に地表に降下、広範囲に汚染した。

除染の基本方針

20mSv以上(計画的避難区域、警戒区域)は国が主体的に除染を実施し、



塩野勝氏

1～20mSvは市町村が計画策定し、国がそれを支援する。

※表土の除去、セシウム 137 のような放射性物質は表層土壌(10cm位)除去で除染可能。

※天地返し、粘土の分離、肥料と石灰の施用、転作。

ファイトレメデーションの流れ:(Phytoremediation という言葉はギリシャ語で phyto「植物」とラテン語で remedium「修復」の造語で植物利用で環境修復する意味)

- ・ケナフ(1年草:多孔質で油脂などの有害物質を吸収する)の利用。
- ・化学洗浄、作業者の被爆管理と処分地の確保など。

※放射性物質の除染は、現在いろいろな方法でなされているが、完全な方法がないままに推移し、その処理場もばらばらに、各地に積み上げられている状況にある。

※詳細は、当市民学会ホームページ(知的サロン開催記録の資料「福島原発事故による土壌の放射能汚染除去1(PDF 3,227KB)」参照。



第32回 知的サロン

「日本のオニ・『鬼』に投影されたもの」

▶平成26年1月16日(木)

▶野口民治

▶神戸生活創造センター5階

節分では「福は内、鬼は外」とかけ声をかけて豆撒きをするところが多いが、「福は内、鬼も内」など別の唱えかたをするところ、また、邪悪な存在ではなく、悪霊を鎮める善なる存在、祖先の霊の化身とするところもある。「オニ」のとらえ方は一様ではない。

「鬼」に関する伝説は各地にある。特に著名なのは桃太郎伝説のルーツとされる岡山の「温羅(ウラ)」、坂田金時が登場する大江山の「酒呑童子」、そして役行者の左右に侍する生駒の「前鬼・後鬼」。これらは中央の権力によって制圧された在来勢力の記憶、あるいは疎外された人々の存在や怨念が伝説という形で残されたものといえよう。



野口民治氏

現在、私たちが持っている『鬼』のイメージは主に平安時代中期以降、仏教布教の手段として創られたものである。

「オニ」という日本語は古くから存在していた。ただ、古代の日本人が持っていた「オニ」の概念は、現在とは全く異なるものであったらしい。話し言葉から書き記す文字へ、外来の漢字を利用して「日本の文字」が成立していくなかで、「オニ」から『鬼』への変化が生じる。平安時代以前の記述に出てくる「オニ」や現代の研究者達が提起しているその原像のいくつかを紹介する。

権力の移動を中心に語られる歴史の表舞台、「オニ」はその底流にある民衆の生活文化を考える手がかりの一つだろう。「オニ」を研究していくと、歴史の別の姿が見えてくるのではないかな。

※詳細は、当市民学会ホームページ(知的サロンの説明欄の資料「日本のオニ・『鬼』に投影されたもの」(PDF 202KB))参照。



あとがき

今回は、4ページにまとめました。

21世紀ひょうご市民学会 ホームページ><http://www.hyogo21ctzn.com> をどうぞご覧下さい。

ホーム(最新情報・お知らせなど)、活動内容、知的サロン、研究会、会報、入会案内など詳細が掲載されています。